

ポンドのトレンドと持続性

ポンドが落ちるときは早い。月曜日の急落は直接的には世論調査の結果が原因だ。それによれば5月に予想される総選挙で、労働党が第一党になるものの、過半数を取れる政党がないことになる。そうなれば重要法案などが通りにくい状況が生まれ、政治状況が流動化する見通しだ。

ポンドはそれまでも低下傾向にあったが、その背景には財政赤字や政府債務の拡大、資金調達能力の問題、景気の問題などがある。それに最近BOEの総裁が量的緩和の継続や景気の二番底の可能性を示唆したこともある。政治的にも経済的にも状況の悪化を示すようなことばかりだ。

つまりギリシャとまではいかないが、英国の問題も深刻だ。政治状況が流動化すれば財政に関する法案の合意は難しくなる。今後しばらくは財政赤字やそのファイナンスの問題は市場の関心を集めるのでポンドにはボディーブローのように効いてくる。ポンドの売り材料は盛りだくさんだ。

もっとも今はどの通貨も売り材料に事欠かないので、それだけで長いトレンドが生まれるとは限らない。ただ今回はユーロ圏も含めて欧州売りの側面がある。それによりポンドは一度焦点が当たると世界中のディーラーがポンドに向かう傾向がある。それで値動きが加速されたりする。

今のところポンドは再び1.5台に戻っているが、これでポンド売りが終わったとは考えにくい。